

## 平成 27 年春の賃上げ状況実態調査結果

### 〈調査概要〉

目的：平成 27 年春の賃上げ状況を具体的に把握し、昨年実施した賃上げ状況と比較するために実施した。

調査対象：①三重県下主要 20 業種、1,140 社にアンケートを実施。回答 366 社(回答率 32.1%)

②愛知県下、284 社にアンケートを実施。回答 53 社(回答率 18.7%)

合計発送数 1,424 社、回答総数 419 社。(回答率 29.4%)

調査時期：平成 27 年 7 月中旬～7 月下旬

実施方法：郵送による発送、回収

### 〈要旨〉

1. 平成 27 年春に正社員の賃金を「例年より多く」引き上げた企業の割合は、企業規模 14 人以下が少ないものの、全体として約 3 割となった。
2. 企業規模毎に見ると、平成 27 年春に正社員の賃金を「例年より多く」引き上げた割合は、昨年とほぼ同様となった。
3. 正社員の賃金を例年より多く引き上げた理由は、「従業員のモチベーションアップ」が一番多く、次いで「業績が良い」、「世間・業界相場を考慮」の順となった。昨年と比べて、上位 3 つの順位に変動はなかった。
4. 昨春に何らかの賃上げをした企業の 95.1%が今春も賃上げしている。一方、昨春に賃金を据え置いた企業の 52.5%が今春も据え置いている。
5. 来春の賃上げの予定は、今春に据え置いた企業の 63.6%が据え置くと回答している。
6. 今春入社の子卒新入社員の初任給を引き上げた企業は、全体では 24.1%と昨年比 2.7 ポイント増加したものの、300 人以上では昨年の 45.5%から今春の 35.9%へと 9.6 ポイント低下している。
7. 契約社員やパート社員の賃金については、「例年より多く」引き上げた企業の割合は、従業員規模に関わらず、正社員より低く 2 割に満たない。この割合は、昨年とほぼ同様である。

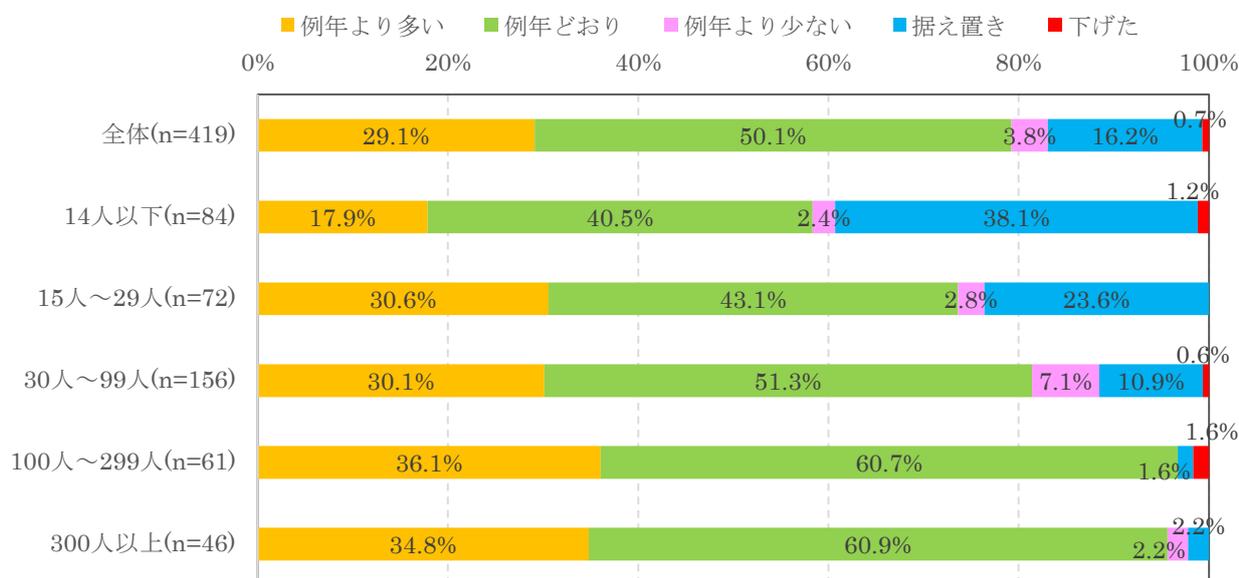
### 〈従業員規模別回答数〉

	回答社数	構成比
14 人以下	84	20.0%
15 人～29 人	72	17.2%
30 人～99 人	156	37.2%
100 人～299 人	61	14.6%
300 人以上	46	11.0%
計	419	100.0%

## 1. 今春（平成27年）の正社員の賃上げ実施状況

今春の正社員の賃上げについて、実施割合を従業員規模別に集計したものが【グラフ1】である。

【グラフ1】今春（平成27年）の正社員の賃上げ状況



全体として、「例年どおり」が50.1%（昨年比+1.3ポイント）と最も多く、次いで「例年より多い」が29.1%（同△0.4ポイント）、「据え置き」が16.2%（同△1.4ポイント）となっている。

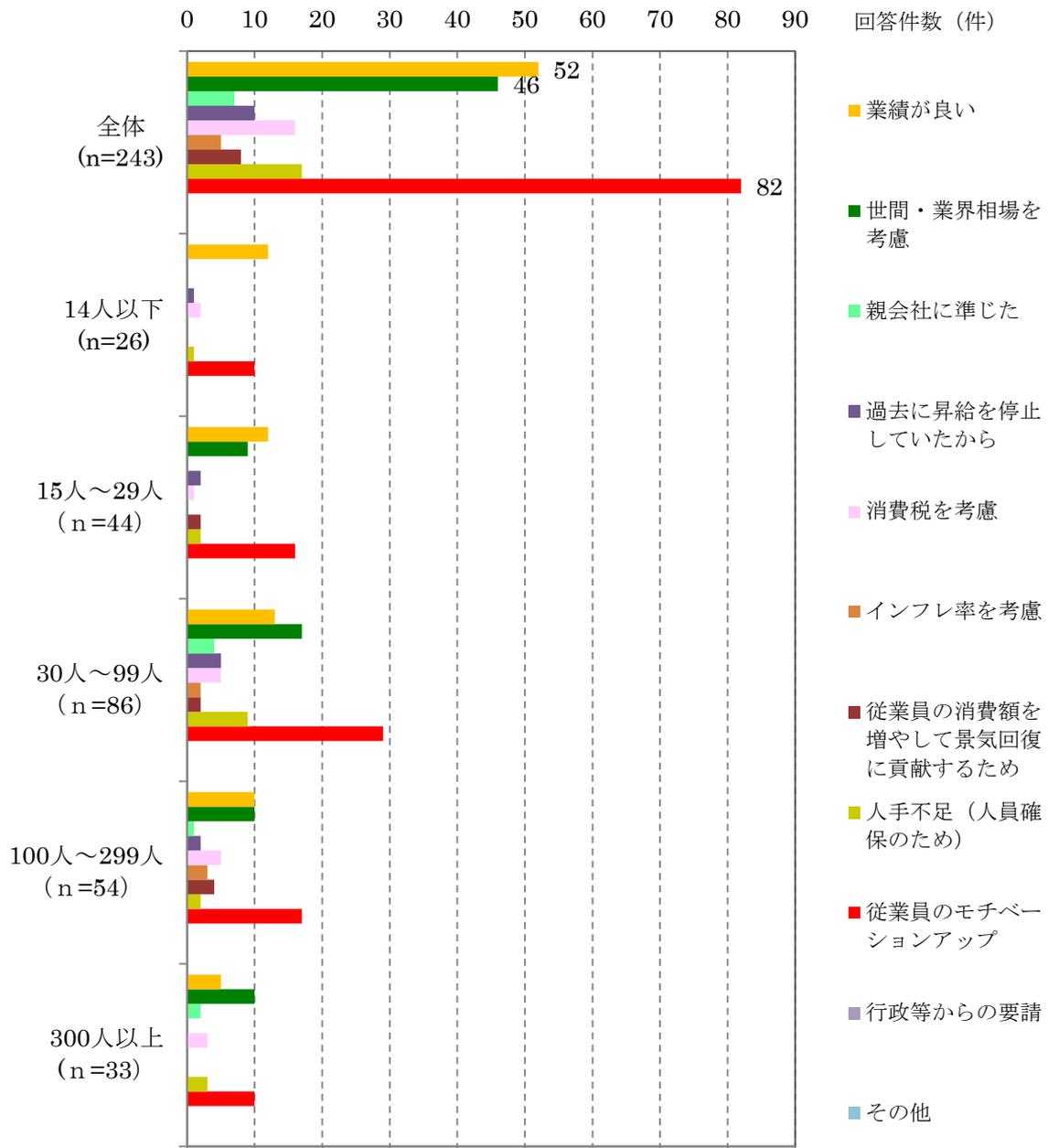
従業員規模別にみると、「例年より多い」の割合は、14人以下が17.9%（同+1.0ポイント）、15人～29人が30.6%（同+2.0ポイント）、30人～99人が30.1%（同+0.8ポイント）、100人～299人が36.1%（同△3.0ポイント）、300人以上で34.8%（同△4.2ポイント）となっており、従業員規模が小さいほど「例年より多い」企業の割合が低い傾向がある。

一方、「据え置き」の割合は14人以下で38.1%（同+6.9ポイント）、15人～29人で23.6%（同△3.7ポイント）、30人～99人で10.9%（同△2.0ポイント）、100人～299人で1.6%（同△8.5ポイント）、300人以上で2.2%（同△0.2ポイント）となっており、従業員規模が小さいほど「据え置き」企業の割合が高い。

昨年と比べると、100人～299人規模の企業においては、「据え置き」が8.5ポイント減少し、「例年どおり」が15.8ポイント増加して300人以上の規模と同様な回答割合となっている。

次に、「例年より多い」と回答のあった企業を対象に、その理由を尋ねた結果が【グラフ2】である。

【グラフ2】 正社員について、今春に例年より多く賃上げをした企業のその理由  
(複数回答)

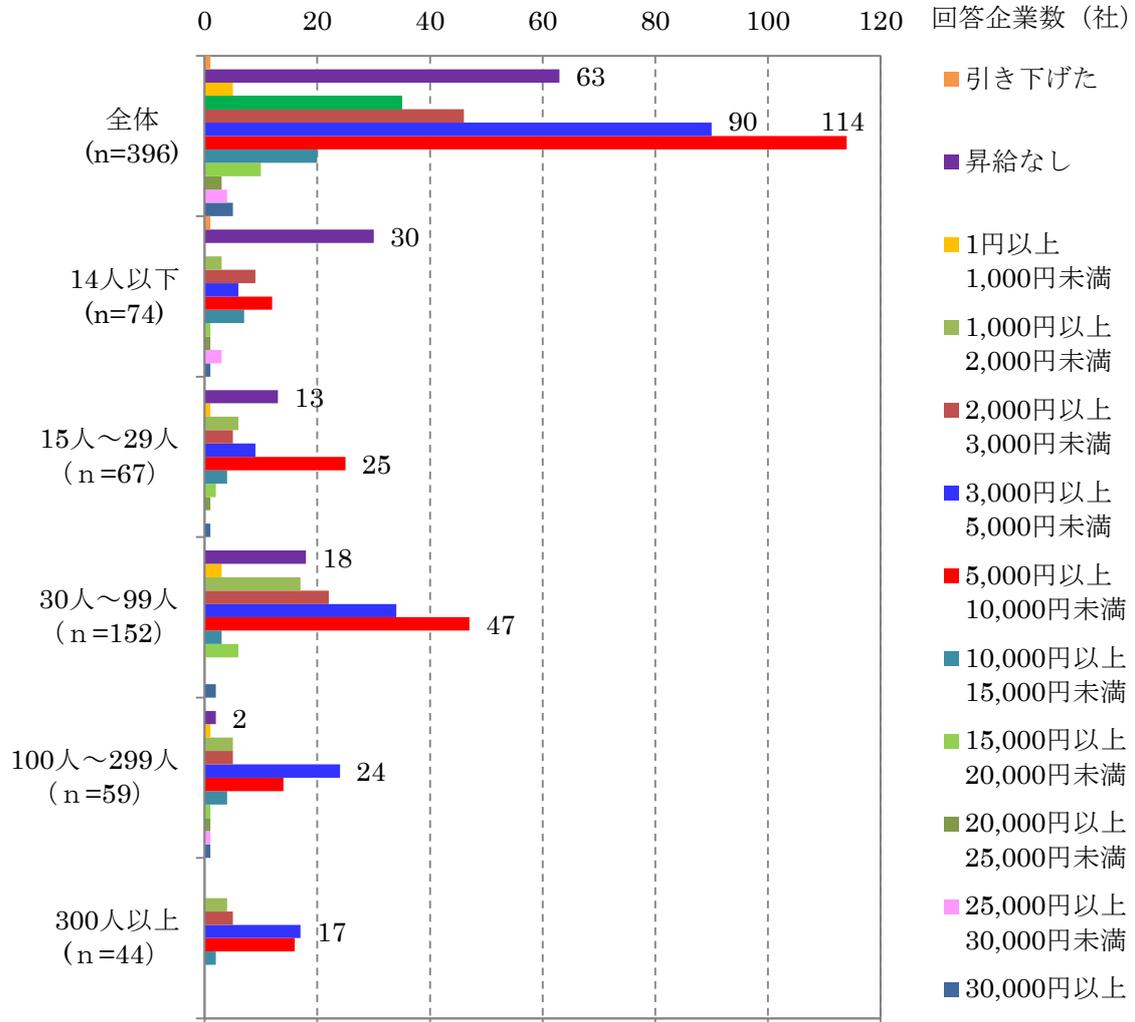


全体では、「従業員のモチベーションアップ」が82件で一番多く、次いで「業績が良い」52件、「世間・業界相場を考慮」が46件と多くなった。昨年と比べて、上位3つの順位に変動はなかった。

14人以下の企業規模では、「世間・業界相場を考慮」の回答はなく、「業績が良い」と「従業員のモチベーションアップ」の2つが、今春により多く賃上げした主な理由となっている。

次に、今春の正社員の昇給額について、集計したものが【グラフ3】である。

【グラフ3】企業規模別、今春（平成27年）の一人あたりの昇給額  
（定期昇給を含む）

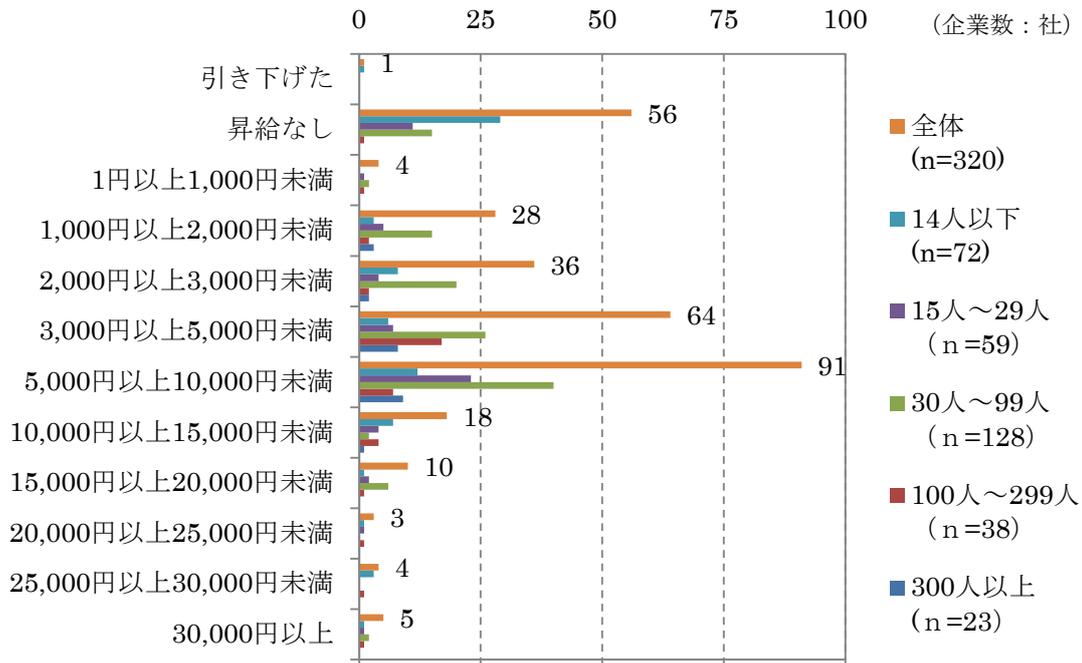


全体で見ると、今春の賃上げ額は、5,000円以上10,000円未満が一番多く、次いで3,000円以上5,000円未満が多い結果となった。

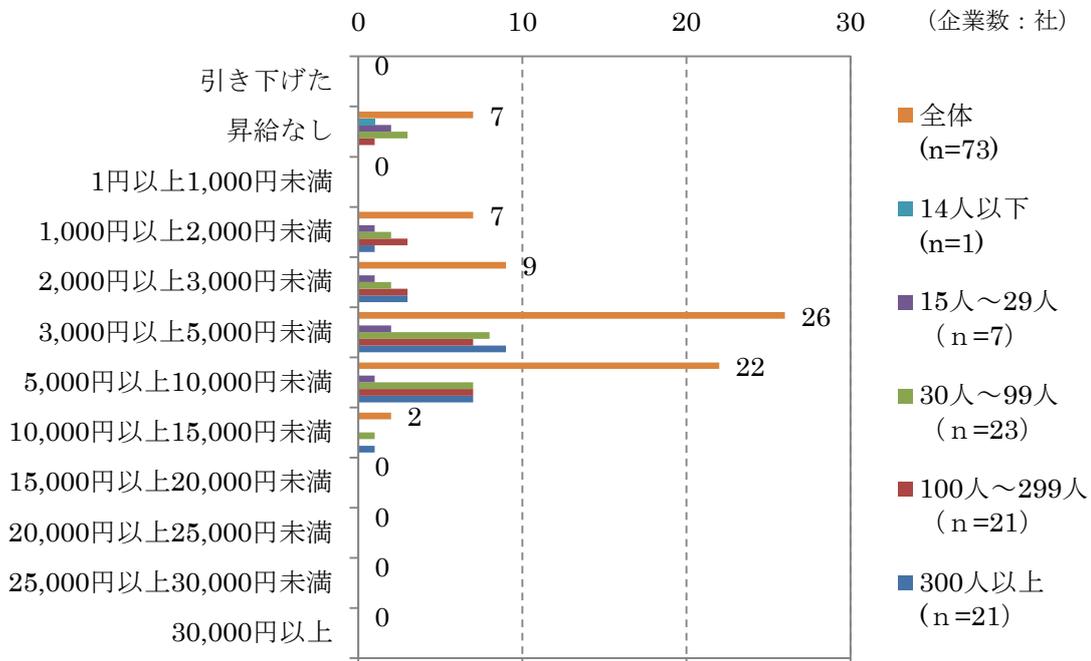
企業規模別では、14人以下では約4割（30/74社）の企業で昇給なしとなっており、企業規模での賃上げ格差が目立つ結果となった。

次項の【グラフ4】と【グラフ5】は、それぞれ、企業規模別の今春（平成27年）の一人あたりの昇給額（定期昇給を含む）について、企業数を労働組合のなし・ありの別で、グラフ化したものである。

【グラフ4】 企業規模別、今春（平成27年）の一人あたりの昇給額（定期昇給を含む）別、企業数 《労働組合なし》



【グラフ5】 企業規模別、今春（平成27年）の一人あたりの昇給額（定期昇給を含む）別、企業数 《労働組合あり》



労働組合のない企業の一人あたり昇給額は、5,000円以上10,000円未満が最多となった。一方、労働組合のある企業では、3,000円以上5,000円未満が最多となり、15,000円以上の昇給はなかった。[なお、労働組合のある企業の昇給額には、非組合員（管理職）部分は含まれていないことが一般的であることに留意して頂きたい。]

なお、正社員について、今春に賃上げをした企業で、業績が良いと回答した企業と賃上げ額の関係を確認したところ、【表1】のように強い関連が見られた。

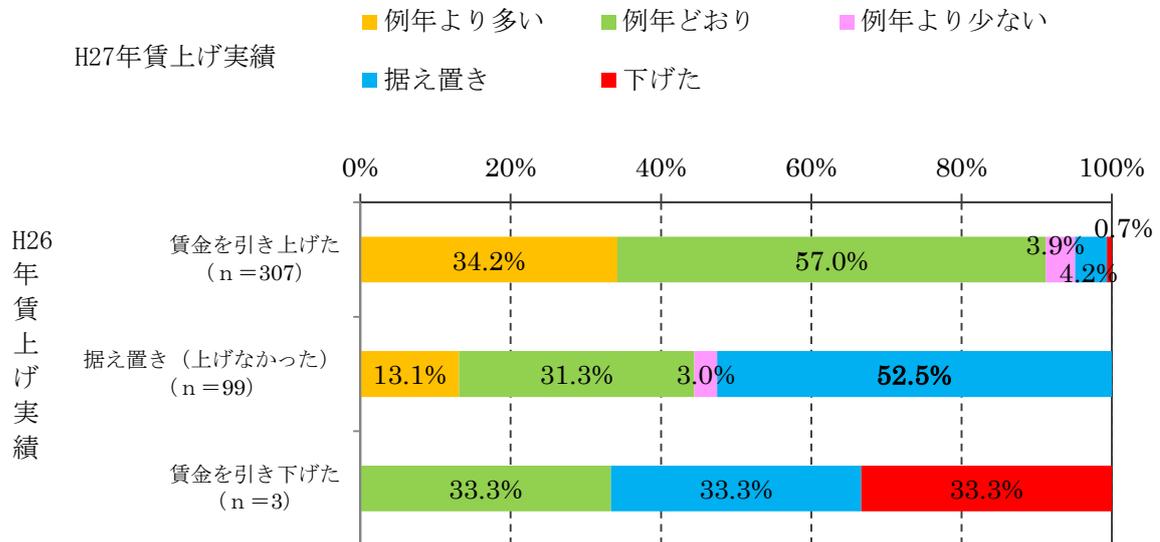
【表1】 正社員について、今春に賃上げをした企業で、業績が良いと回答した企業と賃上げ額の関係（全体 332 社）

下記の各賃上げ実施企業のうち、業績が良いと回答した企業の割合	
30,000 円以上	100.0%
25,000 円以上 30,000 円未満	50.0%
20,000 円以上 25,000 円未満	66.7%
15,000 円以上 20,000 円未満	50.0%
10,000 円以上 15,000 円未満	35.0%
5,000 円以上 10,000 円未満	18.4%
3,000 円以上 5,000 円未満	5.6%
2,000 円以上 3,000 円未満	2.2%
1,000 円以上 2,000 円未満	8.6%
1 円以上 1,000 円未満	0.0%

## 2. 平成 26 年度、27 年度、28 年度（予定）の賃上げの関連について

【グラフ 6】は、昨年（平成 26 年）の賃上げと今春（平成 27 年）の賃上げの関連をみたものである。

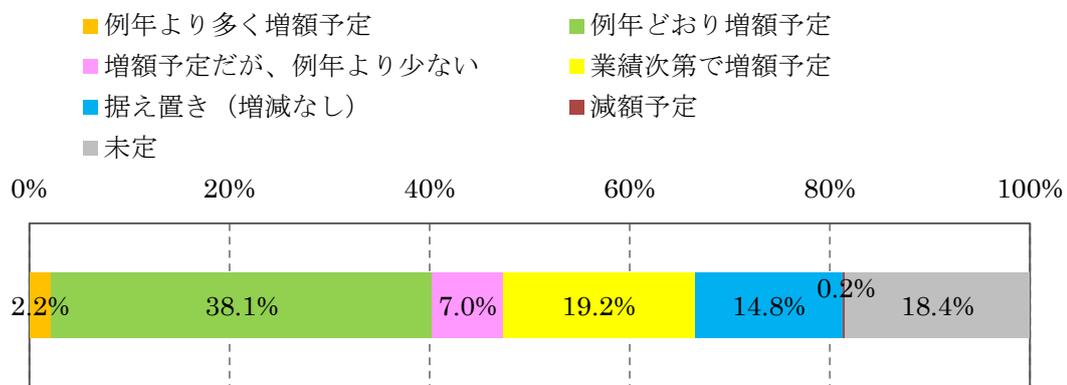
【グラフ 6】 平成26年の賃上げ実績別、平成27年の賃上げ状況



平成 26 年に賃金を引き上げた企業で、平成 27 年もなんらかの賃上げを実施した割合は 95.1%（昨年比△2.6 ポイント）に達しており、据え置いた割合は 4.2%（同+1.9 ポイント）となっている。一方、平成 26 年度に賃金を据え置いた企業では、平成 27 年度になんらかの賃上げを実施している割合は 47.4%（同△5.6 ポイント）に留まり、据え置いた割合は 52.5%（同+6.3 ポイント）に及ぶ。

【グラフ 7】は、来春（平成 28 年）の賃上げ予定について集計したものである。

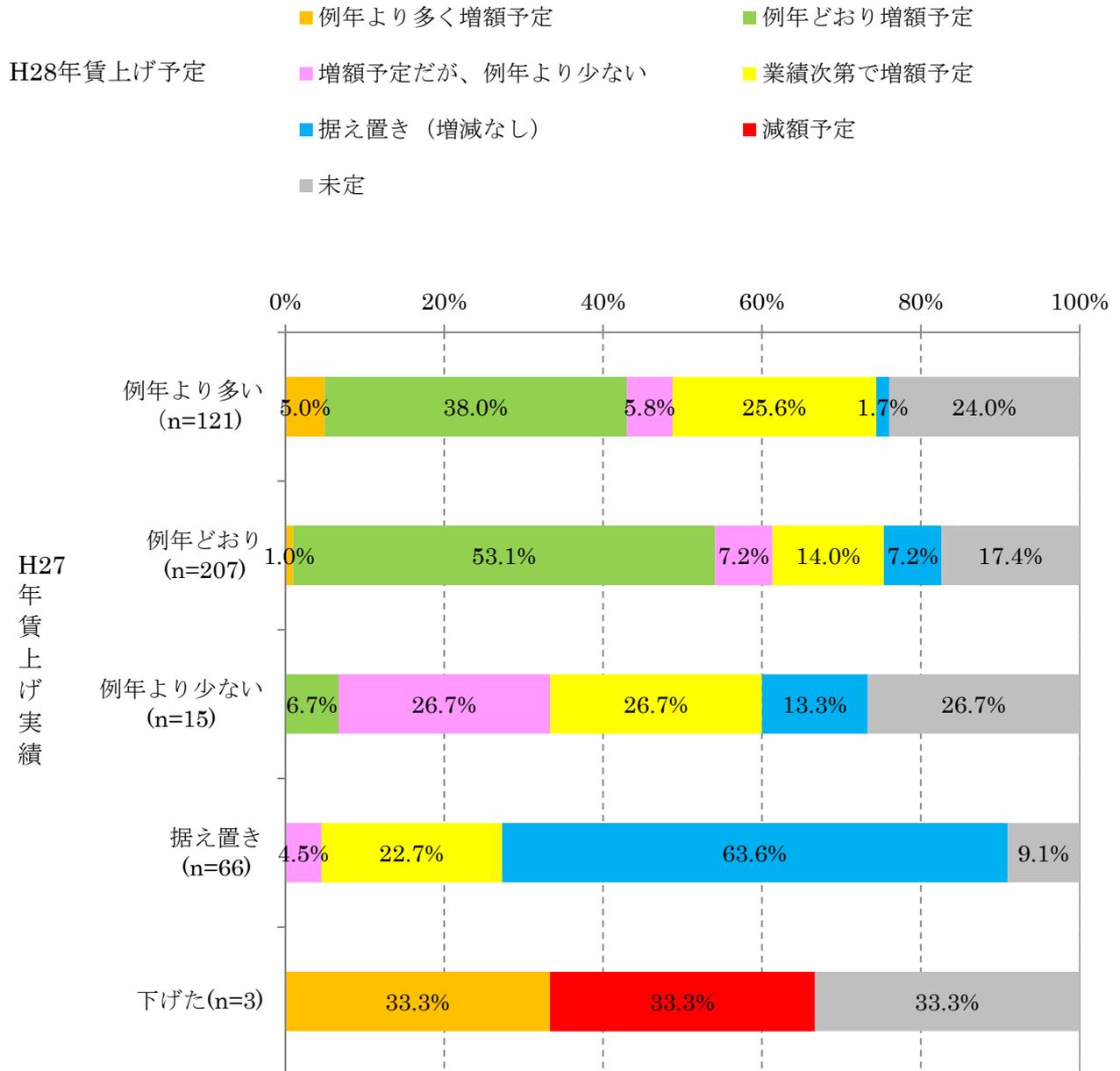
【グラフ 7】 来春（平成28年）の賃上げ予定 （回答数412社）



【グラフ 7】を見ると、「例年どおり増額予定」が 38.1%（前年比+4.2 ポイント）で一番多く、次いで「業績次第で増額予定」が 19.2%（同△4.2 ポイント）であった。据え置きは 14.8%（同+0.7 ポイント）とほぼ昨年と同じであった。

【グラフ8】は、今春（平成27年）の賃上げと来春（平成28年）の賃上げ予定の関連をみたものである。

【グラフ8】今春（平成27年度）の賃上げと来春（平成28年）の賃上げ予定との関係



来春の賃上げ予定は、全体としては【グラフ7】のようになるが、今春の賃上げとの関係を見ると、今春「例年より少ない」賃上げであった企業では、予定ではあるものの、「例年より多く増額予定」の回答がない。今春「据え置き」した企業では、来春も63.6%が据え置き予定と回答しており、一部の企業では依然として厳しい業況が伺える。

### 3. 今春の正社員の初任給額について

今春の学卒正社員の初任給額について、県・学歴・職種・従業員規模の別に集計した結果が【表2】である。

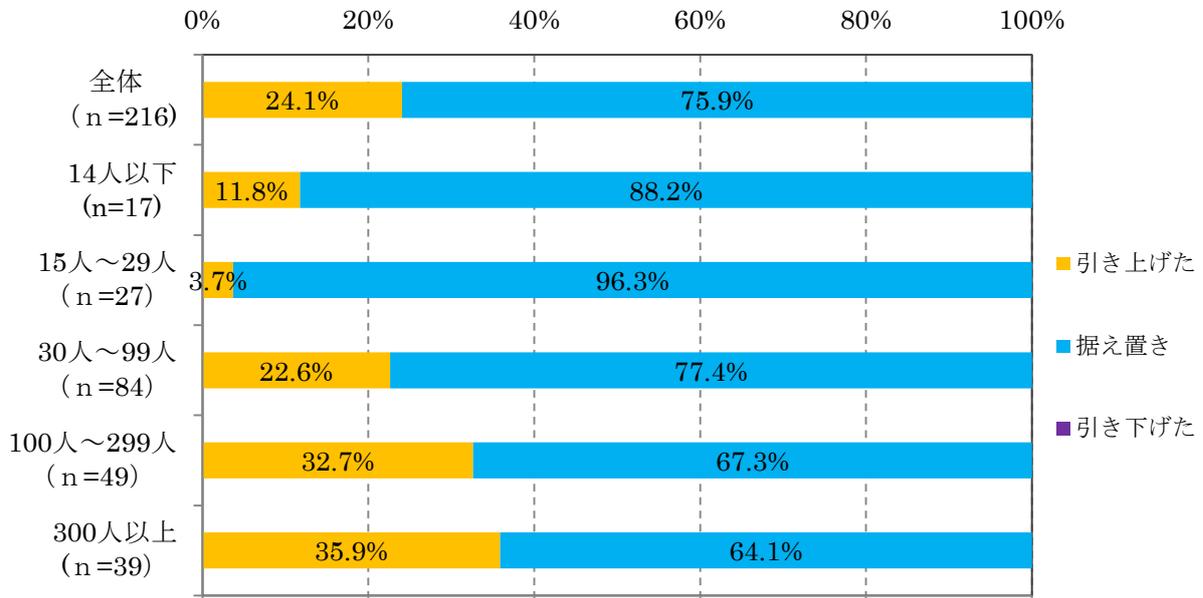
【表2】今春の学卒者（正社員）初任給額と前年比額 (単位:円)

県	学歴	職種	従業員規模			
			規模計	100人未満	100人～299人	300人以上
三重県	高卒	製造	166,254	169,186	161,645	161,231
		前年比	1,271	2,923	△ 2,910	671
		営業	167,383	167,479	169,388	163,229
		前年比	49	△ 3,274	5,492	3,553
		事務	162,557	162,223	164,508	159,520
		前年比	1,582	411	4,125	993
	短大、 専門卒	製造	179,831	179,882	179,718	179,876
		前年比	1,298	△ 1,165	3,219	6,340
		営業	178,560	173,513	183,797	183,755
		前年比	831	△ 8,080	9,127	14,372
		事務	171,045	168,589	176,717	169,600
		前年比	△ 790	△ 3,978	5,129	△ 264
大卒	製造	196,590	195,982	199,544	193,238	
	前年比	1,005	2,185	1,572	△ 4,631	
	営業	198,121	195,373	201,261	201,764	
	前年比	2,037	△ 686	3,790	7,837	
	事務	187,786	184,723	193,564	187,920	
	前年比	△ 1,020	△ 1,004	202	△ 3,055	
愛知県	高卒	製造	174,345	177,738	171,500	166,658
		前年比	2,156	3,793	1,500	△ 1,795
		営業	179,444	181,571	—	172,000
		前年比	△ 1,712	△ 3,596	—	△ 700
		事務	167,120	175,167	154,000	156,100
		前年比	419	△ 833	△ 100	1,695
	短大、 専門卒	製造	185,720	190,000	190,000	179,300
		前年比	△ 557	△ 3,500	2,100	1,057
		営業	190,833	193,000	—	180,000
		前年比	533	△ 3,667	—	5,500
		事務	178,188	181,000	—	173,500
		前年比	1,081	△ 9,000	—	4,483
大卒	製造	198,170	198,583	200,000	196,937	
	前年比	△ 3,163	△ 5,217	667	△ 1,283	
	営業	208,203	211,500	197,500	206,080	
	前年比	4,247	△ 500	△ 2,100	12,765	
	事務	196,680	193,750	197,500	199,794	
	前年比	8,811	△ 10,500	12,067	26,479	

これを見ると、金額水準は愛知県のほうが三重県よりも高い傾向がある。職種では、営業が一番高く、次いで製造、事務となる傾向がある。従業員数との関係では、300人以上になると、初任給水準が低下する傾向がある。

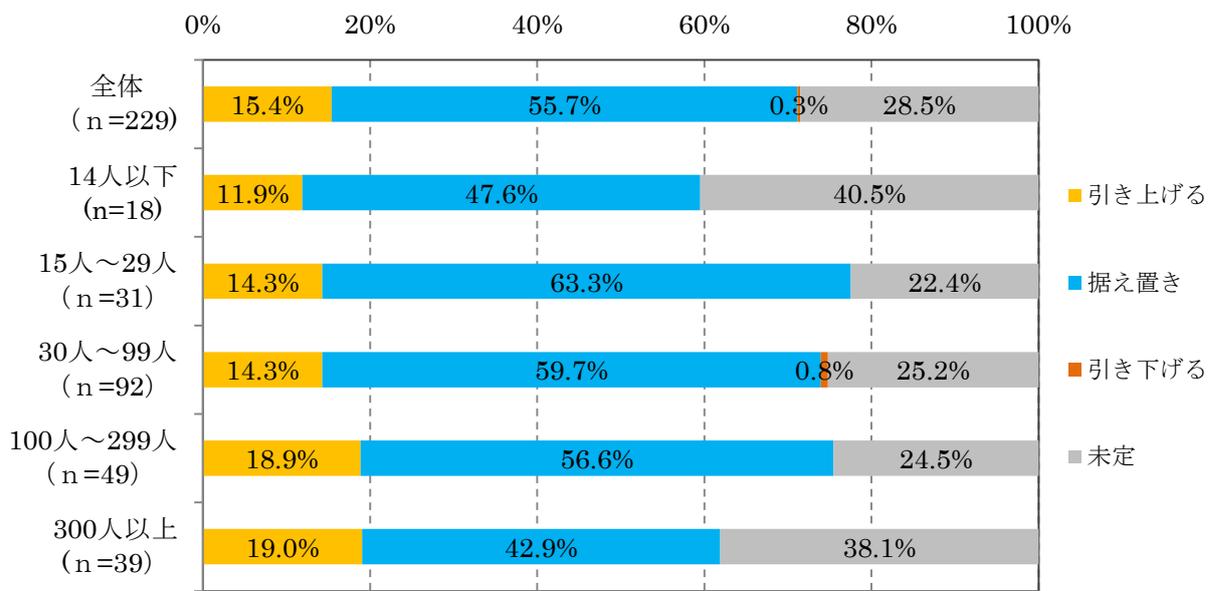
【グラフ9】は、今春に初任給を引き上げた企業の規模別の割合で、全体では24.1%（昨年比+2.7ポイント）となった。15人～29人では引き上げた企業が3.7%と少なく、96.3%が据え置いている。300人以上では昨年の45.5%から今春の35.9%へと9.6ポイント低下している。

【資料9】平成27年今春、学卒者の初任給の増減



【グラフ10】は、来春（平成28年）の初任給の増減予定の企業規模別の割合である。

【グラフ10】平成28年来春、学卒者の初任給の増減予定

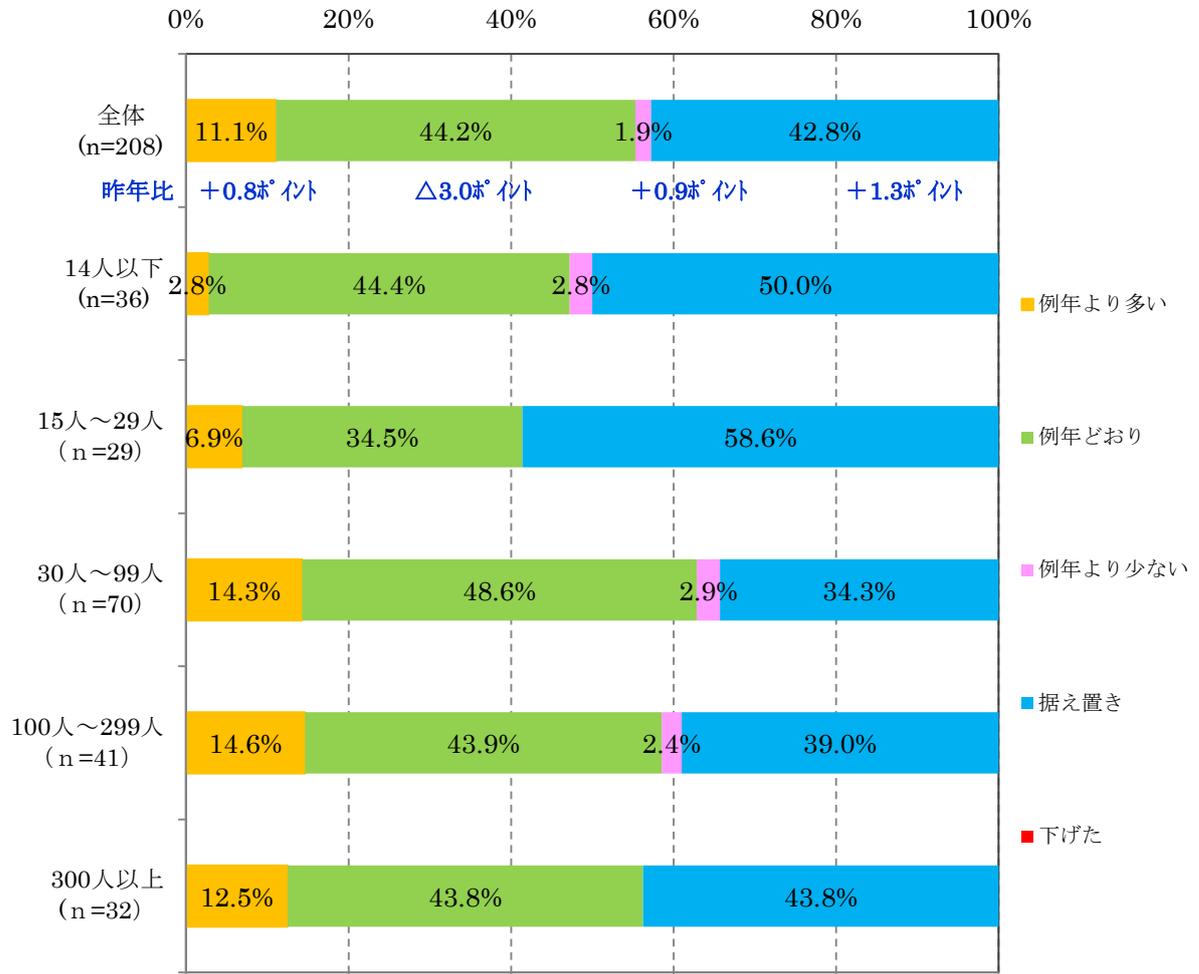


全体で来春の初任給を据え置くとの回答が、55.7%と最も多くなった。

#### 4. 今春の契約社員やパートタイマーの賃上げ状況

①今春の契約社員の賃上げ実施割合が、【グラフ11】である。

【グラフ11】今春（平成27年）の契約社員の賃上げの状況



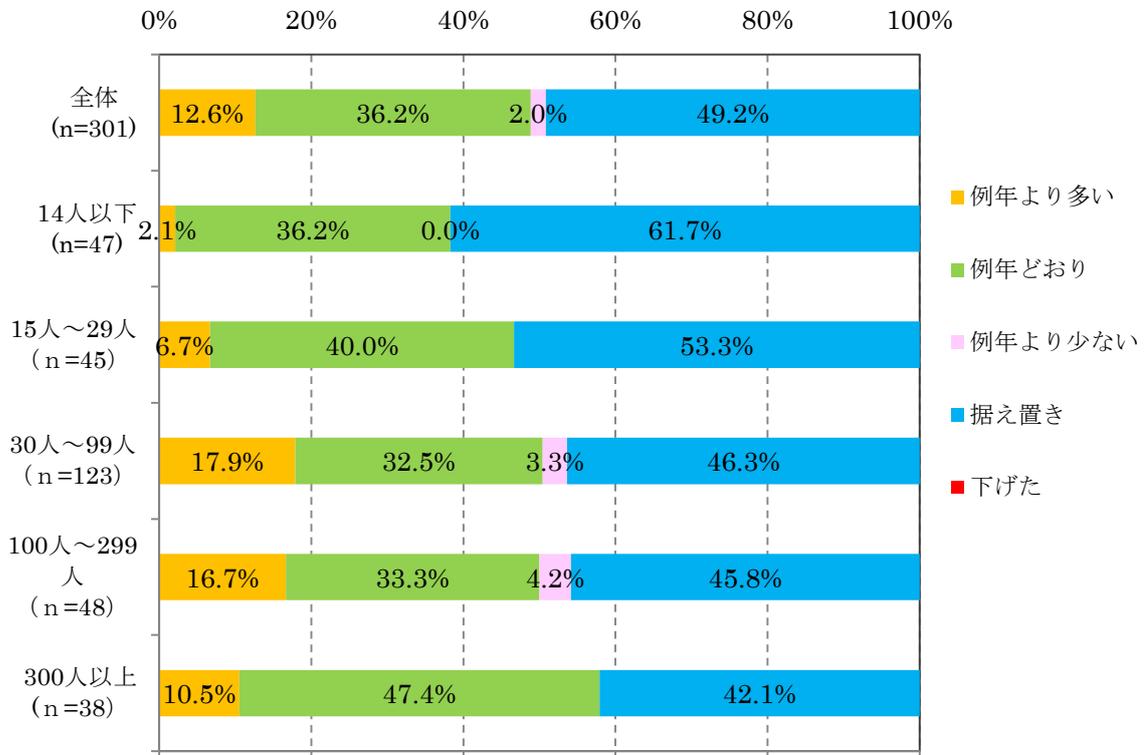
「例年より多い」と回答する割合は、正社員と異なり、企業規模に関わらず1割強である。全体で見ると「例年より多い」と回答する割合は11.1%で、正社員より18.0ポイント少ない。

また、「据え置き」の全体割合が正社員では16.2%に対して、契約社員では42.8%（+26.6ポイント）に達する（【グラフ1】参照）。企業規模別にみると、14人以下の企業や15人～29人の企業では、「据え置き」はそれぞれ50.0%、58.6%と半数以上に達する。

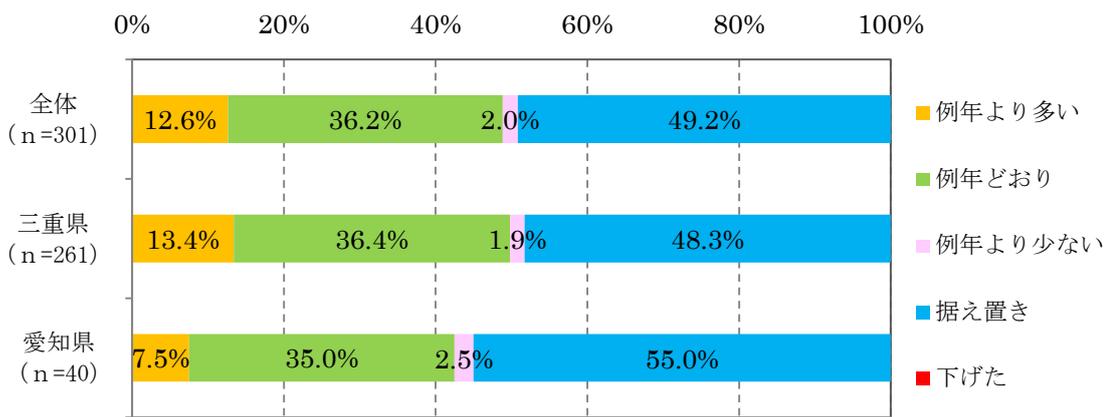
昨年比では、全体ではほぼ同様の傾向にあったが、300人以上の規模では「据え置き」が昨年調査時の平成27年春予定の20.7%から43.8%と23.1ポイント増加した。

②今春のパートタイマーの賃上げ実施割合を規模別及び県別に示したものが、それぞれ【グラフ12】、【グラフ13】である。

【グラフ12】今春（平成27年）のパートタイマーの規模別賃上げ状況



【グラフ13】今春（平成27年）のパートタイマーの県別賃上げ状況



全体では、「例年より多い」が12.6%（前年比△0.8ポイント）で、「据え置き」が49.2%（同+3.0ポイント）となった。県別では、三重県の割合は昨年と同様だが、愛知県は「据え置き」が55.0%（同+22.3ポイント）と増え、「例年より多い」と「例年どおり」がそれぞれ4.7ポイント、14ポイント減少した。

以上